

全久院報

松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

今年の上半期は・・・

今年も半分過ぎてしまいました。皆様にはご健勝でお過ごしのことと存じます。今年は今久院にとって新展開の年になりました。長年総代会長としてお勤めいただいた松尾恵司会長



より、「長年勤めたので、次世代の方に総代長を譲りたい」との申し出があり、昨年より総代会にて人選をいたしておりました。5月の総代会にて永井昭氏が新会長として推薦され、また永井氏にも承諾いただき、永井新会長が誕生しました。総代会は庶務、会計などの役があり、7月の総代会にて役が決まりますので、永井氏の紹介なども含めて、



次号にて詳しくお知らせいたします。副住職の住職への準備が始まります。

また、私の母のひざの状態が悪く、一人で歩行ができなくなり、玄関先まで出ることができなくなりました。皆様と顔を合わせることができなくなりましたが、ひざ以外は大変元気でおります。皆様から顔が見えなくなったと心配のお言葉頂戴しておりますが、元気で過ごしています。

庫裡の南側の駐車場を整地して、副住職の住居を建てる準備を始めました。整地までは順調に進みましたが、青線が敷地内に残っており、松本市よりそれを買上げないと工事の許可が下りません。現在はその手続きを進めております。次号にて完成の報告ができるよう進めてまいります。残りの半年副住職、大黒ともども精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

お盆参りのお知らせ

お盆のお参りの予定を次の表にしましたのでご覧いただき、ご準備をお願いします。本年も副住職俊浩が松本市の北半分を回り、私が南半分を回ります。毎日80軒前後の軒数を回ります。朝7時半から夕方7時ころまで回ります。事前にお配りする、五色の旗を入れた案内の封筒に記入した期日と時間どおりにお参りがなかった場合は、電話などでお問い合わせください。今年の予定は下記の表のとおりです。

8月	副住職の回る範囲	住職の回る範囲
10日	安曇、明科、麻績など超遠方に同行	安曇、明科、麻績など超遠方
11日	並柳、寿、塩尻、村井、平田、など市外南部	笹部、征矢野、南原、石芝、二子、神林、笹賀
12日	筑摩、神田、惣社、山辺、清水、横田、など市外北部	石芝、高宮、南松本、荒井、新村、波田、岡田、桐、沢村、蟻ヶ崎、城山など
13日	源地、日ノ出町、県、西小松、清水、四谷、女鳥羽、下横田など市内北東部	宮村、埋橋、庄内、東中条、豊田町、南新町、井川城、など市内南部

14日	裏町、片端、下横田、女鳥羽、旭町、元町、横田、美須々、浅間、北深志、沢村、田町、など市内北西部	鎌田、本庄、博労町、天神、宮村、中町、小池町、飯田町、本町、新橋、島内、蛇原、
15日	上土、六九、西堀、城西、宮淵、城山、留守だったお宅、	白板、渚、巾上、伊勢町、国分町、留守だったお宅
16日	留守だったお宅	留守だったお宅

お盆前の作業と懇親会に

本年も、お盆が始まるにあたり、本堂の掃除機かけ、山

門の掃除、お墓の掃除や、窓拭きをしていただき、その後懇親会を催したいと思います。ぴかぴかの本堂へ皆様をお迎えするためにも是非皆様お集まりください。毎回参加していただく常連さんもできました。

7月23日(日) 14時全久院の庭に集合、掃除(お墓の清掃・本堂の掃除機かけ・窓拭き・山門二階の拭き掃除など)、掃除が終わり次第、17時より夕食を兼ねた懇親会

作業のできる服装でお越しください。汗をかきながらの作業や懇親ですので、堅苦しくないお寺の一面もわかっていただけるとと思います。参加希望の方は食事の都合がありますので、電話にてお申し込みください。



盆棚の飾り方

お仏壇はご先祖様をまつるばかりでなく、仏様の世界、須弥山(しゅみせん)を表しています。仏教の始まったインドの人々にとっては孤高で白雪を頂くヒマラヤ山脈の峰々は、神聖な場所として信仰の対象となっていました。お釈迦様が説かれた仏さまの住まう須弥山はきっとこのヒマラヤの山々をイメージしたものだったのでしょう。私たちの祖先がお盆の間住まう場所を須弥山に見立てて作られたのが盆棚です。その飾り方はそれぞれの家によってみな違いますので、ご先祖様が代々伝えてきた飾り方を大切にしてください。また下記に一般的な飾り方を示しますので、飾り方の不明な部分はどうぞ参考にしてください。

1、棚を作る場合(写真参照)

上の段に本尊様、(本尊様は仏壇の中に入れ、盆中は扉を閉じておくというお宅もあります。その家のやり方を尊重してください。)お位牌、塔婆を奉る。お位牌は古い順に向かって右へ、新しいものは左へおまつりします。2段目には供物をお供えします。お供物には二種類あります。水(お茶)、食(お膳、果物、菓子、嗜好品)などです。3段目に過去帳、花、燭台、線香立て、鐘、マッチや火消しや線香入れなどの道具をおきます。



2、仏壇を使う場合

仏壇は常のとおり奉る。手前に経机や机を出すお宅は机の上に、経机を出さず引き棚を使うお宅はその上に棚の3段目に飾る過去帳や花や鐘などを飾る。その他灯笼や飾り花、いただいた供物などは写真のとおり適所に飾る。

3、またお寺が配る五色の盆旗は、写真のように広げて糸などを通して吊るか、棚に広げておいてください。

初めにも書きましたが、こうでなくてはいけない、ということはありません。先祖様をお迎えするという気持ちをこめて、その家に伝わった仕方で飾っていただくのが大切なことと思います。

全久院の集い

座禅会・・・「従容録」第56則 密師白兔（みっしばくと）・・・

この則には提婆達多（ダイバダッタ）についての記述があります。提婆達多は〔釈迦に提婆キリストにユダ〕と言われるように、裏切り者や背教者の代名詞になっています。彼はお釈迦様の従弟でお釈迦様に猛烈な対抗心を抱いていました。お釈迦様がヤショーダラ姫と結婚する時も自分の結婚相手だと主張し、競争を申込み破れたり、お釈迦様の悟りを開かれた後弟子となり同行し、反逆の機会を狙ったりしました。また、お釈迦様の出身国のマガダ国の太子アジャータシャトルと組み、お釈迦様に危害を加えようとしたり、お釈迦様の弟子を奪い教団の分裂を計ったりしました。その結果生きながら地獄に落ちたとされる人物です。

お釈迦様は彼を哀れみ、救いの使者を送ったが「我地獄にありといえども三禅天の楽しみあり（生前の罪により身は無限地獄の苦しみを受けてはいるが、三禅天の楽しみの中にある）」と答えたと言います。地獄を楽しむとはどういうことでしょうか。

まずは三禅天を説明します。三禅とは色界中の四禅天の三番目を言います。益々意味が分かりませんね。まず、色界は三界（欲界、色界、無色界）の二番目の世界です。三界は私たち凡夫が輪廻転生を繰り返す世界です。欲界は人間の五官（目鼻耳舌身）の欲が存在する世界で、布施をし戒律を守ることにより、死後天に生まれ変わることができるかとされます。つまり欲にまみれた私たちの世界を指します。次に色界は禅を通して心が静まり、物質的なもの（色）はあっても感覚的な欲は除かれた世界です。それを達成するために四つの禅があります。第一の「初禅」は欲を離れ不善を行わないことにより喜びと楽を受ける。「第二禅」は求めることを停止することで、心が浄くなり、心が統一し喜と楽が生ずる。「第三禅」は喜を捨てることで正しい智慧が授かり身の楽を受ける。「第四禅」は最後に残った楽と苦を断じ捨てることにより精神が究極の清浄になる。私たち凡夫は喜や楽を求めて生きている訳ですが、喜や楽求めず、求めることを捨てることで正しい智慧が授かり、究極の清浄心に至ることができるのです。

提婆達多は地獄に落とされても、三番目の禅に身を置くことができました。気の持ちようによって地獄も楽しめるのです。しかしそんなに簡単な事ではありません。まとめてみると、

- ・ 布施をし、戒律を守ることにより、死後天に生まれ変わることができる
- ・ 禅を通して心が静まると、物質的なもの（色）はあっても感覚的な欲は除かれる
- ・ 欲を離れ不善を行わないことで喜びと楽を受ける
- ・ 求めることを停止することで、心が浄くなり、心が統一し喜と楽が生じる
- ・ 次に喜を捨てることで正しい智慧が授かり、身の楽を受ける
- ・ 最後に残った楽と苦を断じ捨てることにより精神が究極の清浄になる

欲界において、捨てるということを繰り返すと、地獄も楽しめる、どんな窮地に追い込まれてもそこで楽しめる。逆に心の持ちようを間違えると、人もうらやむ立場にいても苦しいと思い込んでしまう。禅の達人沢木興道師は「仏法とは自分の目や耳や頭をかえるということじゃ」とおっしゃった。自分の心の持ちようを変えられれば、苦も楽になります。地獄にいても楽しめる、そんな心を持てる生き方も学べるようになりたく思います。

新年会 本年は1月14日(土)に開催されました。例年どおり茶席、本堂での座禅、読経。席を庫裡に移し護持会の総会、御詠歌、合唱とお愉しみを含めて和やかに行事を進めました。全久院の活動を楽しんでくださる皆さんが集まり、日ごろの活動を発表しながら楽しみの輪を広げてくださいました。



観音講 3月の観音講で毎年恒例になった「ヤショウマ」を作りました。2月の観音講で作り方を確認して、何をどう作るかそれぞれに考えてきていただいた結果が左の写真です。昨年まではなかなか思ったような形にすることができませんでしたが、今回は・・・何に見えます？



茶道コーナー

・・・初釜・・・

1月9日(月・成人

の日) 毎年恒例の初釜を行いました。全久院の茶道部はお弟子さんの会を「即心会」という名で呼んでいます。現在40名ほど登録されています。この皆さんが一年の稽古始めに集まり、住職と副住職の点てる濃茶と薄茶を味わっていただき、会席料理を賞味してもらうという日程です。

私も弟子として京都の堀内家の初釜に参加させていただいていますが、正月の改まった席での緊張感「一年の稽古を今日始めるんだ」という気構えを調えるのに最適のものです。堀内家でも毎年新年の飾りとして決められた道具立てで宗匠から濃茶を点てていただきますが、前年にど



んな稽古をしてきたかを見透かされてしまう厳しさと、もっと頑張れと励ますやさしさを頂戴して来ます。そんな気持ちを稽古に来ていただける皆さんに届けることができるかを、毎年自分に問いかけています。

今年の会席料理は以前「嵯峨野」という会席料理の店をやっていた武田さんに「腕を振るっていただき茶事の形式で行いました。以前も書いたかと思いますが、茶道は茶事を行うことを

目的に稽古を積み上げています。日頃の稽古の成果を確認するのが茶事であり、そこに集う亭主と客の心通わせる時間を作り出すのが茶事と考えています。ただ点前を覚えるだけの稽古から一歩踏み出した稽古ができるように自分を高めていきたいと思えます。

葬儀や法事に全久院をご利用ください！

このたよりにずーっとこの記事を掲載してきましたので、法事や葬儀でお寺を使っ

ただけようになって来ました。これからも益々お寺を使っただけよう、いろいろな情報をお伝えしようと思えます。

最近の葬儀では数年前では考えられないことが起こっています。いずれも都会のことですが、僧侶による読経もなく火葬して、火葬場から遺骨を残したまま家族がいなくなってしまう、などということが起こっています。また、お寺に宅急便で遺骨が送られて来たりなど、家族の絆が破壊されてしまった事例が報告されています。たくさんの人を集めて葬儀をする必要はありませんが、心寄せ合った人々による亡き人の「送り」は必要ではないでしょうか。以前は「浮かばれない」という言葉がよく使われていましたが、縁のある人々の手によって、亡き人を仏の世界にお送りすることがなければ、亡き人は「浮かばれない」という意味だと思えます。人の心に重要な働きをする「送り」を行えるのがお寺です。

経済的な面でもたくさんのお金を使うことが葬儀ではありません。何度もこの紙面にて報告していますが、業者のホールを使った葬儀や法事は、最新の設備を備え便利で快適ですが、その分費用はビックリするほど高額になります。葬儀費用を比較してみますと100人のお参りの人が来る葬儀を仮定すると、ご遺体の自宅への搬送から始まる全ての費用は、業者では、100人×25000円＝250万円くらい。寺を使えば100人×10000円＝100万円くらいになります。差し引き150万円程の差が出ます。

人手についても心配いりません。ことの葉（前ヒラバヤシ生花店）（電話32-8722）かメモリアルライフ信州（電話40-7745）へ電話するだけです。行政などへの手続きや、花や供物の発注、葬儀の内容や「あとふき」など、みな業者がやってくれます。

業者に「積立金があります」と言われますが、それが30万円としても、120万円浮いてきますし、その積立金を法事などの別の用途に使うこともできます。

葬儀や法事は宗教的な儀式ですから、寺という場所でなければ、その儀式を行う意味が薄れます。また経済的な面も考慮してお寺を使っただけきたいと思えます。正座をしなくていいようにイスを用意しました。駐車場の確保、など以前よりは便利になってきています。いざという時に慌てぬよう、自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。

住職の活動

長生会大会 右の写真は今年10月18日に開催される長生会信州大会に向けた発起人会の様です。長生会というのは表千家の家元を支える「堀内

家」の全国組織のことです。この会が毎年大会を開き、全国からのお客様を迎えます。今年は信州が会場となり、全久院、深志神社、市民芸術館、護国神社、ホテル ブエナヴィスタで茶席が設けられます。当日は着物を着た会員500人程が全久院の周りを茶席巡りします。2年前から計画に入り



準備を進めてきましたが、これからが大変です。上田、長野、佐久、松本、諏訪、飯田の先生方に協力いただき、160人程のスタッフを各役割に振り分けて対応します。次号に笑顔の写真を掲載できるように頑張ります。

大黒コーナー … オペラ ロンバルディア…

オペラを楽しむ会主催 第6
回公演 オペラ「第1回十字軍の

ロンバルディア人」を11月26日(日)14時開演という予定で開催いたします。この作品は、ヴェルディの第4作目「ナブッコ」の次に書かれた作品で「ナブッコ2」とも呼ばれています。息もつかせぬストーリーが素晴らしく、アリア・重唱曲・合唱曲等の美しい音楽に乗って進んでいきます。日本でも公演されるのは貴重で珍しい演目となっています。現在合唱メンバー、ソリストともに張り切って取り組んでいます。制作については地域の皆さんの力を借りています。

衣装 出演者の採寸終わり、生地を選び、デザイン決めていきます。衣装スタッフの茅野町子さんが、全久院の檀家さまで、オザワインテリアさんから、ただで頂いた生地も使い重宝しています。亡くなった東堂さんのもう使えないぼろぼろの古い生地も偶然見つけ再利用させていただきます。

小道具 小道具スタッフはとても器用で発想が素晴らしい方です。塩ビ管などを利用して、盾や鉾を作ります。本物そっくり?になりますのでご期待を!! 駐車場誘導ライトが何になるかもお楽しみに!!

背景画 小平陽子さんというイラストレーターに場面の感じ、雰囲気、何を描くかを説明します。そしてイメージしていただき絵にしてもらいます。それをプロジェクターで背景に映します。字幕もわかりやすく、背景に大きく映し出します。場面に出てくる石の壁はミラノの古い家の壁です。ミラノ在住のイタリアでお世話になってますピアニストの合田由佳さんがこのために写真にして送っていただきました。これも加工して背景画に使います。どの場面に出てきますか!!



オーケストラ フルートから始まり木管、金管、打楽器、弦楽器等全部で32人とピアノが集まり時には繊細に、時には壮大に奏でます。10月と11月にオーケストラ合わせがあります。プロもアマも交じっての演奏です。中には信州大学や桐朋学園の学生もいらっしやいます。やはり、オペラを全幕演奏するのはなかなかできない経験で、貴重ですので、皆さん楽しみにしてくださっています。3幕途中、戦争でみんなぼろぼろになって歩いて陣営へ帰っているところに流れる、ヴァイオリンソロがとても美しく聴きどころの一つです。ご期待ください。

稽古の報告 去年の6月からこのオペラの合唱練習始めてちょうど1年になります。月に2~3回ずつ。この6月からは回数も少しずつ増えてきました。後4か月少しです。だんだん盛り上がり完成していくと思われれます。6月16日…初めての合唱立ち稽古…ソリストとの絡みなどもやりました。合唱メンバーもとても、声が伸びやかになってきて、演技も1を言えば10を知るという感じになってます。仕上がりが今から楽しみです。この



オペラは、合唱の比重も高く、合唱団にとってもやりがい半端なくとても充実しています。

あらすじ

第1幕：復讐

ミラノの寺院前の広場にて「前奏曲(28小節)と導入」美しいヴィクリンダを巡ってローマ貴族の兄弟アルヴィーノとパガーノの愛憎劇と、十字軍という宗教的な聖地巡礼に巻き込まれる二人の物語。司祭がアルヴィーノに異教徒に奪われた聖地を取り戻すべく指導者になるように呼びかける「修道女たちの合唱、情景、詠唱と刺客たちの合唱」。パガーノはヴィクリンダへの忘れ得ぬ思いと兄への復讐を歌う「おお、復讐への喜びよ」など曲に乗って物語が進みます。兄の部屋にてヴィクリンダと娘ジゼルダが不安にかられている「ああ、聖なる乙女よ」と祈る。パガーノが刺客を連れ兄の部屋へ忍び込む。しかし誤って父親を殺してしまう。

第2幕：洞窟の人

キリスト教徒の十字軍が迫っていると聞き、アラーの神に祈る「使臣たちの合唱」。異教徒の王子オロンテは捕らえられたアルヴィーノの娘ジゼルダと愛し合うようになる「二人の喜びの歌」。オロンテはキリスト教への信仰に傾く。十字軍は進む。パガーノは素性を隠し十字軍に加わっている「十字軍の賛歌」。アルヴィーノとパガーノを巻き込み戦いが続く。

第3幕：改宗

エルサレムを目指す「十字軍や巡礼の合唱」。洞窟の中、ジゼルダはオロンテと共に手を取り父親の陣営から逃げるが、オロンテは深い傷を負う。あまりの苛酷さにジゼルダが神を呪うと、行者が現れオロンテはキリスト教徒の洗礼を受け昇天する。「喜びが血を沸き立たせる」

第4幕：聖墓

ジゼルダはオロンテが聖霊達と法悦にひたっている夢を見る。「夢ではなかった」と歌う。十字軍の行進する人々。「おお主よ、故郷の家々を」。激しい戦いの中、瀕死のパガーノはアルヴィーノに名乗り出て許しを請う。涙ながらに抱き合う兄弟。そして終焉へ。(幕)



皆様にご覧いただけるよう、練習にも熱が入ってまいりました。是非ご覧ください。ポスター、チラシ、チケットの準備も整いました。大黒、方丈がたくさん持っています！また、キッセイ文化ホールにて、販売開始しましたので、皆様ご都合付く方は是非よろしく願いいたします

信州松本からのオペラ文化の発信です！どうぞご期待下さい。

掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

～施食会～

8月5日(水) 12時より自家製によるお弁当、12時半より住職の話、13時より観音講や合唱部の皆さんと一緒に懐かしい唱歌の合唱、14時より法要(ご詠歌の会の皆様による奉詠)、15時よりお塔婆を配ります。また恒例になりましたバザーを行いたいと思います。タオル・シート・ふとん・食器・石鹸などたくさんの品があります。持ち帰るのに便利な風呂敷や紙袋など持ち寄ってお越してください。かなり良い品がありますので是非ご協力ください。そのほか皆さんにお参りいただけるような内容をと考えています。ぜひご参加ください。

．．． 檀信徒作業と懇親会 ．．．

例年通り 7月23日(日)14時より全久院で開催します。2時より本堂とお墓の清掃、窓拭き、山門の掃除をしていただきます。5時より懇親会となります。屋外でのバーベキューと冷たい生ビールという趣向です。参加希望の方は 34-4300 へファックスください。

．．． 座禅会 ．．．

9月16日(土)・10月21日(土)・11月18日(土)・12月16日(土) お粥と精進料理。

以上が下半期の日程です。毎回夕方4時集合4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。12月19日はお粥と精進料理を経験していただきます。座禅を経験していただくだけでなく、もの見方や生き方を豊かにすることができますと思います。ぜひご参加ください。

．．． ご詠歌会 ．．．

9月13日(水)・10月11日(水)・11月8日(水)・12月13日(水)

午前10時半より12時まで、白板 東昌寺副住職 飯島恵道師にご指導いただきます。一緒にいかがですか。また、ご詠歌を始めたいという方に大黒が初心者コースを始める計画をしています。ご希望の方はぜひご連絡ください。上記とは違う日程をくみたいと思います。

．．． 観音講 ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。ただし、10月は17日を変更し23日(月)に奈川の「仙洛」への小旅行の予定です。恒例の観音講の内容は10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱11時20分より食事という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気よりも良く60代から90代の方が元気に集まってきます。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． 歌の会 ．．．

9月6日(水)・9月20日(水)・10月4日(水)・10月18日(水)・11月1日(水)・11月15日(水)・12月6日(水)・12月20日(水)

午前10時より12時まで、お茶休憩をはさみ大黒が指導します。発声練習をして、唱歌、童謡、懐かしい曲など一緒にいかがですか。また、ハーモニーを付ける曲もあります。他の催しへの参加なども企画しています。音楽を通した楽しい友達もできますよ。お待ちしております。

．．． 全久院ホームページ ．．．

<http://zenkyuin.or.jp/>

全久院ではホームページを開設しています。「全久院報」をネットで見ていただけるようにしています。管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんと親しみやすいものにしてゆきたいと思います。また、皆様と意見や情報を交換できる場に育てて生きたいと思います。ぜひ一度開いて見てご意見ください。